

<報告>

「夏休み野外学習会」を開催、地下ダムをPRしました。

沖縄総合事務局土地改良総合事務所は、平成28年7月28日(木)と29日(金)の両日、国営事業で造成した農業用の地下ダムがある糸満市、八重瀬町の小学生とその保護者を対象とした夏休み野外学習会を開催しました。

糸満市にある米須(こめす)地下ダム、八重瀬町にある慶座(ぎいざ)地下ダム、仲座(なかざ)ファームポンド、仲座加圧機場を回りながら、施設管理者の沖縄本島南部土地改良区と共に、地下ダムがでてから変わってきたこの地域の農業の様子や、施設が果たしている役割などを説明しました。参加した児童生徒たちは、「地下ダムの貯水量は学校のプール何杯分なのか」といった3択クイズに元気に回答し、保護者たちは地元産の野菜や果物の充実に地下ダムが貢献していることに納得していました。また、慶座地下ダムでは、水位水質観測施設に生息する日本最大のテナガエビであるコンシンテナガエビを見つけて歓声を上げていました。

今回の野外学習会には、2日間の合計で、児童生徒41名、保護者24名の参加がありました。学習会終了後、児童生徒からは「地下ダムの役割がよくわかった。」、「地下ダムの水を山の上のタンクに上げて勢いをつけて下の畑に流す仕組みがすごいなと思いました。」といった、また、保護者からは「ファーマーズを利用するのですが、そこの野菜等が充実しておいしく食することができるのも地下ダムのおかげだとわかりました。生活を支えているのに見えない大きな存在ですね。」といった主催者に嬉しい感想が寄せられました。

